

2022（令和4年）年度事業報告

1. 相談業務

①電話相談

開局して38年が経過した。24時間年中無休体制で対応している。2022年（1月1日～12月31日）の受信件数は、13,263件（前年13,197件）、受信時間数は7,168時間37分（前年7,204時間42分）で、1日の平均受信件数は36.3件（前年36.1件）、1件あたりの平均時間数は32.4分（前年32.8分）であった。そのうち自殺志向を伴う相談が1,393件（前年1,368件）あった。

②インターネット相談

インターネットを活用したメール相談を始めて12年になる。現在、福岡を始め全国17センターで相談活動を行っている。メール相談の特徴は、女性の利用が多いこと、年代別には40代、50代、20代の順になっており、自殺傾向の相談率が高いこと（51.6%）が挙げられる。2022年の受信件数は全国で1,145件（前年1,237件）。福岡では88件（前年85件）を対応した。

③自殺予防いのちの電話（厚生労働省補助事業）

2001年より、全国共通番号（フリーダイヤル回線）による自殺予防専用相談を、全国のいのちの電話で取り組んでいる。

毎月10日の8:00から翌8:00まで24時間体制で対応。2022年は延べ99名が担当し、678件（前年694件）の相談に応じた。

2. 相談員の養成と継続研修

（1）電話相談

①電話相談員実働数 170名（2021年171名）

②電話相談員の養成について

- ・第47期生 17名（2021年10月～2023年8月）
- ・第48期生 18名（2022年10月～2024年8月）
- ・養成段階スーパービジョンを年20回開催した。延べ44名が参加した。

③電話相談員の継続研修

- ・全体研修を4回開催し、養成講座など18回の研修を補講に指定した。
 - 第1回 5月28日「電話相談の終わり方を考える」講師：松尾公孝氏 74名参加
 - 第2回 九州沖縄地区「いのちの電話相談員ワークショップ福岡大会
基調講演「ひきこもりの多面的理解と支援アプローチ」講師：加藤隆弘氏 148名参加
分科会A「傾聴と対話：ロジャーズが目指した傾聴とは何か」講師：本山敬智氏 44名参加
分科会B「こころとからだのボディワーク」講師：吉川昌子氏 15名参加
分科会C「傾聴に苦慮する事例の対応を考える」講師：矢永由里子氏 36名参加
分科会D「スーパービジョンを考える」講師：末松 渉氏 25名参加
 - 第3回 12月17日「結婚の自由をすべての人に訴訟と性の多様性について」
講師：石井謙一氏 81名参加
 - 第4回 3月5日の自殺予防公開講座と兼ねて開催 178名参加（一般含む）
「しにたい気持ちが消えるまえ～しにたい気持ちを抱える子供たちへ先輩が伝えた
いこと～」講師：豆塚エリ氏
- ・補講
 - 第47期、48期生ボランティア養成講座15回実施（4月～3月）
 - ブラッシュアップ研修（1～30期の電話ボランティアを対象に実施）
2月4日（土）講師：吉良安之氏、3月11日（土）福留留美氏 35名参加

④グループスーパービジョンの実施

9グループのスーパービジョンを年94回開催し延べ732名が参加した。

⑤自主研修会の開催

ケースと私（C.I研究会 講師：福盛英明氏）を6回行った。

⑥電話ボランティア養成サポーター（ボランティアリーダー）の研修

- ・経験と資質を備えた電話ボランティアの中から、新規生養成課程で協力にあたる養成サポーターの新規養成及び継続研修を9月24日、25日（講師：本山智敬氏）に実施し、12名が参加した。
- ・養成サポーター自主研修を2月25日に実施し12名が参加した。

（2）インターネット相談

①相談員実働数は12名（2022年4月から2023年3月末現在）

②インターネット相談養成研修の実施

日本ののちの電話連盟が主催するインターネット相談員養成研修に3名が参加した。新型コロナウイルス対策としてリモート講義及び動画視聴による実習、OJT（実際に返信文作成）が1月～3月に開催された。

3. 自殺予防対策啓発事業

- ・朝日新聞厚生文化事業団と共催で自殺予防公開講座を3月5日にNTT夢天神レソラホールで開催し、178名（一般参加を含む）が参加した。講師；豆塚エリ氏
講演「しにたい気持ちが消えるまえ～ しにたい気持ちを抱える子供たちへ先輩が伝えたいこと～」
- ・福岡県自殺対策強化月間及び週間に福岡県と合同で行っている街頭啓発活動は、昨年引き続きコロナのため中止となった。

4. 広報活動

①季刊の広報紙「福岡いのちの電話」No.149～152号を発行

②ホームページを随時更新

③フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」の実施に向けてポスター、カードを配布

④テレビ、新聞等による広報

「福岡県だより」及び「福岡市政だより」に第48期ボランティア養成講座募集記事が掲載（8月）。

朝日新聞に自殺公開講座案内記事が掲載される（2、3月）。

福岡市市民クリスマスプログラムに活動を広告する（12月）。

⑤オリジナル支援自販機で相談電話番号等を掲示

支援自販機の設置場所（2022年3月末現在）は以下の通り

- ・九州大学病院 ・JFEパイプライン株式会社 ・(有)ダイキ通信工業
- ・西日本新聞社プロダクツ・西日本新聞社本社（10F、11F、12F）・福岡県弁護士会館4F
- ・西部ガスホールディングス株（パピヨン24内、油山研修所内） ・西部ガス都市開発（サテ飯倉、ニシコー千代ビル） ・南蔵院 JR 篠栗線「城戸南蔵院」駅

⑥マスメディア、関係機関による取材、報道

- ・7月20日（西日本新聞）電話ボランティア募集記事
- ・12月7日（TVQ九州放送）福岡いのちの電話の活動内容
- ・1月21日（西日本新聞）2022年自殺者数2万人超
- ・3月7日（朝日新聞）自殺防止公開講座開催記事
- ・3月25日（NHKテレビ）自殺防止公開講座関連番組

⑦「福岡いのちの電話」のオリジナル相談周知用カードを作成

⑧第48期ボランティア養成講座応募を周知するチラシ及びポスターを作成

- ・関係個所への配布及び西鉄大牟田線の5駅（天神福岡駅、薬院駅、高宮駅、井尻駅、久留米駅）にチラシを設置。

5. 募金・後援活動の推進

①後援会・法人合同役員会は、コロナ感染防止のため中止した。

②後援会主催チャリティイベントの開催

- ・チャリティ「納涼寄席」（8月3日ふくふくプラザホール）入場者数136名。

③事業ボランティア会活動

- ・例会の随時開催。
- ・手づくり会の定期開催（毎月第2、4火曜日）。
- ・チャリティコンサート等の協力（8月3日）。
- ・福岡城東ライオンズクラブ主催チャリティゴルフ大会（10月4日）に協力。
- ・ハートフルフェスタ福岡2022は、会場において広報用DVDを放映した。

6. 各種委員会・班会の定例的開催

- ①理事会を毎月（12回）開催した
- ②定時評議員会を開催した（6月11日）
- ③教育委員会を毎月（12回）開催した
 - ・養成サポーターとの交流会を開いた（9月21日）。
 - ・拡大教育委員会を1回開催した（12月16日）。
- ④相談活動運営委員会を11回開催した
- ⑤相談員集会を2月18日に開催した
- ⑥研修運営班、広報活動班、社会資源研究班、受信資料検討班の班会の随時開催

7. 会員相互の親睦と活動の活性化

- ①会員総会を、7月2日に開催した。

8. 統計資料の整備充実

- ・日本いのちの電話連盟統一の書式に基づいて、統計用の入力作業を行った。
- ・受信資料検討班において「相談員から電話を切る」の分析作業が行われた。

9. 講師等の派遣、講演

- ・福岡城東ライオンズクラブ例会（1月12日）において卓話を行った。
- ・福岡県社会福祉士会主催の自殺予防ソーシャルワーク（1月28日）に講師を派遣した。

10. 関係会議への出席

- ・日本自殺予防学会（9月11日 ハイブリッド開催）
- ・日本いのちの電話連盟定時社員総会（6月25日 ハイブリッド開催）
- ・日本いのちの電話連盟全国事務局長研修（7月2日 リモート開催）
- ・全国いのちの電話相談員全国研修会は、コロナ感染防止のため中止となった。
- ・福岡市自殺対策協議会（1月19日）